

グループ紹介

フレンドの会

絵画同好会 彩々会



「フレンドの会」は、生涯学習センターきらめきの油絵講座上級を修了した受講生が、このまま終わることが忍びないと声を掛け合い、平成20年（2008年）に発足しました。今年で4年目になります。現在会員は20人で、毎週水曜日の午後3時30分から石川先生の指導の下で活動しています。先生の前向きな姿と穏やかな人柄は私たちの活動の励みになっています。

絵は四季の花々や果物、野菜、食器類などの静物を描いたり、年に4、5回はモデルを呼んで描いています。今年は茨木市の桜通りや京都伏見の酒蔵に出向きました。昨年11月には滋賀県近江八幡に1泊の遠征をし、子どもの頃の遠足気分を味わい心が弾みました。夕食時は皆の豊富な話題に笑いが絶えず、より深い絆ができました。

しかし、絵を描くときは一心にキャンパスに向かい集中します。思いのままに描いた絵はそれぞれの個性が出てとても興味深く参考になります。作品の完成時は全員で批評をし合い、良い所を認め合ったり助言したりするので向上心が湧いてきます。

「楽しく描こう」をモットーに、これからもこの出会いを大切にしながら絵を描き続けたいと思います。

代表 久米川 敬



市民インタビュー 第45回

この人に会いたくて



書芸アーティスト
ささき てっせん
佐々木 鐵仙さん

20歳の頃から書道を学んでいた佐々木さんは、数年後、病氣療養中に俳句に出会い、その世界に没頭します。

その後、篆刻や水墨画にも出会い、やがてそれらが融合した素晴らしい作品が次々と創り出されていきます。

書、俳句、篆刻、画の4つを融合した作品には佐々木さんのどのような思いが込められているのでしょうか。

先生は書、俳句、篆刻、画を融合した作品を創っておられますが、最初に興味を持たれた分野は何ですか。

私が20歳を過ぎた頃、ある友人から手紙をもらいましたね。それが素晴らしい毛筆の手紙だったんですよ。この字に負けないくらい字を書いてみたいという思いから独学で書道を始めました。

次に始めたのが俳句です。28歳で肺結核になり、2年間の療養生活を送ったのですが、そこで出会った患者仲間が俳句をしていたのです。その人の指導で24時間朝から晩まで俳句に明け暮れました。よくダメ出しをされましたが勉強しましたよ。しばらくして俳句雑誌『馬酔木』に投稿し始め、1年くらい過ぎた頃から採用されるようになりました。

退院後、仕事の関係で福岡から関西へと移り住み、35、6歳になったとき、書と俳句のほかに何かやってみたいという思いにかられ、篆刻（石や木などの印材で書画に使う印章をつくること）をすることにしました。しかし独学では上達は難しく、先生について勉強することにしました。40歳を過ぎて少し腕が上がった頃、落款（らつかん）を創ってほしいと依頼してきた人が、たまたま水墨画の先生だったので、画の指導をお願いすることにしました。

それらを融合した作品づくりはいつ頃から始められたのですか。そのきっかけは何ですか。

自分の個展を開くようになってからです。展覧会は普通、書は書だけの、篆刻は篆刻だけの展覧会というふうに別々に開かれます。50歳の頃から個展をするようになってしばらくは私も別々に開いていたのですが、何か堅苦しい感じがするのです。もっと楽しくなるような作品を展示したいと思うようになり、10回目くらいからそれらを融合した作品を創り展示するようになりました。

先生の作品づくりの根底にあるものは何ですか。

私は、幕末から明治、大正を生きた文人画家、富岡鉄斎のようになりたいとずっと思ってきました。鉄斎の作品は素晴らしい。若い頃、書店で鉄斎の書簡集を見つけたときはうれしかった。しかし高額だったのですぐ買うことができず、結局1年かかってやっと手に入れることができ

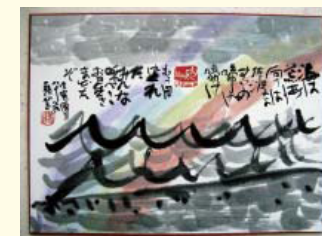
ました。それほど素晴らしいものなんです。文人とは書ができて絵が描けて、篆刻ができて詩が書ける。作品の字や詩が読めなくても感動を与えることができる。私の作品づくりの根底にはいつもそうした思いがあります。

最近、韓国のソウルに招待され、地元の方と二人展をされましたね。

展覧会の開催時、主催者の方に肩書きがない私をなぜ招待してくださったのかと聞くと、作品第一で選んだとのこと。大変うれしく思いました。私は肩書きはあまり好きではありません。肩書きを目標に努力することはいいことですが、それは山のふもとに着いただけ。まだ頂上にたどり着いていないのですよ。そこから努力して自分の力で登ることが大事ですね。展覧会はおかげさまで日本と同じように大盛況で、たくさんの人に喜んでいただきました。

最近は絵手紙などを趣味にする人が増えています。何かアドバイスを。

構図ですね。特に余白が大事です。どうしたら余白が生かされるか。それと文字のおもしろさ。形だけではなく、にじみやかすれ。これは計算してできるものではありません。私は書くときには全体を想像しますが、あとはおまかせです。出来上がってみると偶然のおもしろさが現れていることがあります。しかしそれは努力があつてこそその偶然です。それともう一つ、良い作品をいっぱい見ることも大切なことだと思いますよ。



上、左：佐々木さんの作品
右：作品集

